

## メキシコ政治情勢（８月）

### 〔概要〕

#### 【内政】

- 1日、過去の政治的決定に関する法的手続の是非を問う国民投票が実施。
- 3日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は60%で、前月比4%増。
- 3日、連邦議会、臨時会でラミレス新大蔵公債相の就任を承認。
- 4日、連邦選挙裁判所長官が、弾劾投票により解任。
- 6日、最高裁判所長官が、自身の任期延長を否定。
- 13日、テノチティラン陥落（先住民の抵抗）500周年記念式典が開催。
- 21日、野党連合党首会合が開催。連邦議会新会期における協働等を確認。
- 25日、連邦検察総局が、アナヤ前大統領候補を収賄容疑で告発する旨発表。
- 27日、内相が交代。サンチェス＝コルデロ前内相は上院へ復帰。ロペス・エルナンデス・タバスコ州知事が新内相に就任。
- 29日、連邦上下両院、新会期における執行部を選出。
- 30日、全国の学校における通常（対面）授業が再開。

#### 【外交】

- 3日、墨政府、グアテマラに抗新型コロナウイルス・ワクチン15万ドースを贈与。
- 4日、墨政府、米国の銃器企業を提訴。
- 5日、エブラル外相が、中国主催の新型コロナウイルス・ワクチン国際協力フォーラムに出席。
- 9日、「ロ」大統領とハリス米国副大統領が電話会談。
- 10日、米国の安全保障問題担当大統領補佐官、国土安全保障局長官他が訪墨。
- 11日、「ロ」大統領が、バイデン米国大統領をメキシコに招待すべく調整中と発言。
- 13～15日、メキシコ市でベネズエラ与野党交渉会合が開催。
- 16日、墨政府、地震被害を受けたハイチへの人道支援を実施。
- 17日、住居及び経済回復に係るラミカリブ諸国共同体（CELAC）加盟国会合が開催。
- 23～26日、ラッソ・エクアドル大統領が訪墨。「ロ」大統領と首脳会談。
- 24日～、墨政府、アフガニスタンからの難民を受け入れ。
- 25日、墨政府、移民保護プロトコルの再開に係る米国最高裁判断に対する見方を発表。
- 30日、「エ」外相が武器貿易条約加盟国会合に参加。
- 31日、貧困削減・開発促進に係るCELAC中国フォーラムが開催。

## 【内政】

### 1 過去の政治的決定に関する法的手続の是非を問う国民投票

1日、過去の政治的決定に関する法的手続の是非を問う国民投票が実施。同投票を発案したロペス・オブラドール大統領の狙いは、過去の大統領による汚職等を裁くことに賛成かを問うことであったとされるが、投票率は7%にとどまり（同投票が有効となるには、投票率40%超が必要）、今次投票結果は法的に無効とされた。

### 2 大統領支持率等に係る世論調査結果

3日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。「ロ」大統領の支持率は60%で、前月比4%増。不支持率は38%で、前月比2%減。

（7月8～10日及び23～24日に、全国の有権者1,300名を対象に電話調査形式で実施。誤差±2.7%。※を付した質問は、23～24日に500名を対象に実施。）

(1) 「ロ」大統領の取組を支持するか。

ア 支持する：60%（前回（6月、以下同じ）56%）

イ 支持しない：38%（前回40%）

(2) メキシコが現在抱えている主要な問題はいずれか。

ア 治安の悪さ：31%（前回35%）

イ 経済、失業：23%（前回21%）

ウ 新型コロナウイルス感染症、保健：23%（前回12%）

(3) 各分野における「ロ」大統領政権の取組を如何に評価するか。

ア ワクチン接種

・とても良い、又は良い：68%（前回62%）

・とても悪い、又は悪い：20%（前回20%）

イ 保健分野

・とても良い、又は良い：51%（前回48%）

・とても悪い、又は悪い：33%（前回30%）

ウ 経済分野

・とても良い、又は良い：40%（前回38%）

・とても悪い、又は悪い：41%（前回42%）

エ 汚職対策

・とても良い、又は良い：38%（前回36%）

・とても悪い、又は悪い：42%（前回46%）

オ 治安対策

・とても良い、又は良い：31%（前回27%）

・とても悪い、又は悪い：52%（前回59%）

(4) 総じて、メキシコは如何なる道を辿っているか。

- ア 良い道を辿っている：38%（前回41%）  
イ 悪い道を辿っている：33%（前回33%）
- (5) 本日が大統領信任投票日であった場合、如何に投票するか。  
ア 信任票を投じる：59%（前回54%）  
イ 不信任票を投じる：37%（前回41%）
- (6) 以下の「ロ」大統領に期待される特質について好評価するか。  
ア 誠実さ：58%（前回55%）  
イ リーダーシップ：50%（前回51%）  
ウ 結果を出す能力：43%（前回46%）
- (7) 国家警備隊を、如何に評価するか。  
ア とても良い、又は良い：57%（前回66%）  
イ とても悪い、又は悪い：21%（前回18%）
- (8) 以下の事項につき、賛成か、反対か。※
- ア 軍が治安対策に取り組むこと  
・賛成：68%  
・反対：27%
- イ 軍が道路及び税関を管理すること  
・賛成：65%  
・反対：30%
- ウ 新（サンタ・ルシア）空港のようなプロジェクトの建設を軍が担当すること  
・賛成：55%  
・反対：42%
- エ 国が軍事化すること  
・賛成：39%  
・反対：52%

### 3 ラミレス新大蔵公債相の就任が承認

3日、連邦議会が、臨時会でラミレス新大蔵公債相の就任を承認した。

### 4 連邦選挙裁判所長官が解任

4日、不正蓄財の容疑で検察から捜査されていたバルガス連邦選挙裁判所長官が、同裁判所判事による弾劾投票により解任された。「バ」長官は、解任は無効で自身に辞意はないと主張していたが、9月に新長官が選任されるまで、臨時の長官が就任した。

### 5 最高裁判所長官が任期延長を否定

6日、サルディバル最高裁判所長官は、自身（「サ」長官）の任期を2024年11月ま

で延長するとの議会決議につき、憲法遵守の観点から右を否定。本来の任期である2022年末で職を辞する考えを発表した。

## 6 テノチティトラン陥落500周年記念式典が開催

13日、メキシコ市内で、テノチティトラン陥落（スペインによるアステカ王国征服、先住民の抵抗）500周年記念式典が開催され、「ロ」大統領は、同征服を批判し、植民地支配、奴隷制、抑圧、人種・階級差別等を否定しつつ、正義、平等、平和及び普遍的な兄弟愛の重要性を強調した。

## 7 野党連合党首会合の開催

21日、野党連合「Va por México」（注：6月の中間選挙及び9月開始の連邦議会新会期に向けて主要野党が結成）を構成する各党（制度的革命党（PRI）、国民行動党（PAN）、民主革命党（PRD））党首が会合。連邦議会新会期において、与党に対抗する勢力として引き続き結束・協働することが確認された上、下記（1）～（10）の共通目標が発表された。また、中間選挙において与党連合（特に国家再生運動（MORENA））の候補への犯罪組織の肩入れがあったとして、米州人権裁判所に本件を提訴する考えが発表された。

- （1）憲法上のコントロール、民主的ガバナンスの確立。
- （2）三権の間のバランスの堅持、行政府による突発的な憲法改正の防止。
- （3）予算案に関するチェック&バランスの強化。社会政策からの顧客主義的性格の排除。
- （4）自治行政機関の独立性の尊重。
- （5）市民社会、メディアの尊重と連帯の推進。
- （6）軍の任務の憲法に基づく適正化。
- （7）選挙法の尊重。議会過半数による（与党の）全体主義の回避。
- （8）投資、経済成長、開発、中小企業政策等の充実を通じた経済の活性化。
- （9）環境への配慮、クリーンエネルギーの回復。パリ協定、アジェンダ2030の推進。
- （10）暴力、無処罰の阻止、実質的平等の達成。

## 8 アナヤ前大統領候補に対する告発

25日、連邦検察総局（FGR）は、リカルド・アナヤ前大統領候補（注：2018年大統領選挙時のPAN候補、2024年大統領選への再立候補の意思を表明）を収賄容疑で告発する旨を発表した。FGRは、ロソヤ元石油公社（PEMEX）総裁（注：ペニャ・ニエト政権時のポスト。同政権が発足当初に提案・推進した「メキシコのための協約」への野党主要関係者の賛同を取り付けるに際し、伯オデブレヒト社から流入した資金を通じた買収を行ったとの容疑で捜査されており、現在は政府の証人保護プログラム下にある。）の証言に基づき、「ア」前大統領候補を「ロ」総裁からの収賄容疑で捜査していた。本件に関し、「ロ」大統領は、自身や政府の関与を否定する傍ら、「ア」氏は、政治的な訴追に他ならないとの

コメントを発出した。

## 9 内相の交代

27日、サンチェス＝コルデロ内相（注：同内相は2018年の上院議員選挙にMORENA所属議員として当選しており、これまで同議員職を休職し内相を務めていた。連邦議会新会期が開会されるにあたり、上院に戻り、議長に就任）の後任に、ロペス・エルナンデス・タバスコ州知事（注：内相就任に際し、同州知事職を休職）が就任した。

## 10 連邦上下両院の執行部が選出

29日、連邦上下両院は、9月1日の新会期開始に先立ち、議長等の新執行部（任期は明年8月末まで）を選出した。上院は上記の通り、MORENAのサンチェス＝コルデロ議員（前内相）が、下院はMORENAのグティエレス議員が、それぞれ新議長に選出された。

## 11 通常（対面）授業の再開

30日、全国（注：台風・豪雨被害を受けた南バハカリフォルニア州及びシナロア州、その他感染状況を鑑み再開を見合わせた一部州等を除く）の公立・私立学校（初等教育から高等教育まで）で、昨年3月より中断されていた通常（対面）授業が再開された。ただし、生徒が通学するかどうかは任意とされており、教育当局は、並行して遠隔（テレビ番組）教育プログラムを引き続き提供する必要がある。なお、私立は学校毎に、生徒の意向等を踏まえつつ形式を定める。

## 【外交】

### 1 墨政府、グアテマラに抗新型コロナウイルス・ワクチン15万ドースを贈与

3日、墨政府は、グアテマラに対し、メキシコ国内で完成形にしたAstraZeneca社製ワクチン15万ドース第二便を贈与。右により、墨政府は、ラ米カリブ諸国7カ国に計約101万ドースを贈与したこととなる。デルガド多国間問題・人権担当外務次官は、自身のツイッターを通じ、本件は地域諸国に連帯する人道的取組である旨強調した。

### 2 墨政府、米国の銃器企業を提訴

4日、墨政府は、米国のボストン裁判所に対し、メキシコと取引を行っている米国の銃器企業10社（武器製造業者及び販売業者）を提訴した。これは、墨政府による、暴力と組織犯罪に対する国家戦略の一部とされ、メキシコでの大規模攻撃、暴力事件等で使用されるような高威力の銃器へのアクセスを助長する、銃器取引に関わる企業の過失を主に問題視し、より厳格な、責任ある武器取引及び損害賠償を要求するもの。

### 3 中国主催の新型コロナウイルス・ワクチン国際協力フォーラムへの外相参加

5日、中国政府の主催によりオンライン形式で開催された、新型コロナウイルス・ワクチン国際協力フォーラム第1回会合にエブラル外相が参加し、パンデミックにおける中国からの医療物資、機材、ワクチン等の支援を高く評価し、墨中間の良好な関係を強調する演説を行った。

#### 4 「ロ」大統領とハリス米国副大統領が電話会談

9日、「ロ」大統領と「ハ」米国副大統領が電話会談。移民の構造的な原因、両国間国境の再開、ハイレベル経済対話（9月9日に開催予定）等、二国間及び地域の諸課題に関し協議された。同会談の結果、米国政府からAstraZeneca社製ワクチン500万ドース及びModerna社製ワクチン350万ドースをメキシコへ贈与されることで合意された。

#### 5 米国政府代表団が訪墨

10日、サリバン大統領補佐官（国家安全保障担当）、ゴンサレス国家安全保障局西半球担当上級部長、マヨルカス米国土安全保障局長官他の米国政府代表団が来墨。「ロ」大統領、「エ」外相他と、移民の流れの管理に向けた協力、墨米ハイレベル経済対話（本年9月9日に実施予定）、墨米ハイレベル安全保障対話の実施等につき協議した。

#### 6 バイデン米国大統領の訪墨招待

11日、「ロ」大統領は、「バ」米国大統領をメキシコに招待すべく調整中と発言。訪墨の時期については、9月末が提案されている。

#### 7 ベネズエラ与野党交渉会合が開催

13～15日、メキシコ市内で、ノルウェーの仲介、「エ」外相主催の下、ベネズエラの与野党の交渉会合が行われた。与野党双方の代表が来墨・出席し、同国における選挙のあり方、国際社会からの制裁の解除等について協議され、9月3～6日に対話が継続されることとなった。

#### 8 墨政府、ハイチへの人道支援を実施

16日、地震被害を受けたハイチに対し、墨政府が人道支援を実施。飲食料品、医薬品等計15.4トンの物資が墨空軍機で現地に輸送された。

#### 9 住居及び経済回復に関するラ米カリブ諸国共同体（CELAC）加盟国会合が開催

17日、CELAC議長国として、墨政府（外務省、農地土地都市開発省、労働者用国営住宅供給公社（INFONAVIT））は、「包括的、平等かつ持続可能な住居及び経済回復」と題するCELAC加盟国会合をオンライン形式で開催。経済及び人々の住居に対する新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響に関し、専門家を招いて、加盟国間で如

何なる協働や情報交換が出来るか等につき話し合われた。

#### 1 0 ラッソ・エクアドル大統領の訪墨

23～26日、ラッソ・エクアドル大統領がメキシコを公式訪問。「コルドバ条約署名200周年」記念式典（メキシコ独立達成祝賀行事の一環）に特別来賓として出席した他、24日に「ロ」大統領との間で行われた両国首脳会談にて首脳共同宣言が発出され、政治的対話、二国間貿易、投資等、二国間の諸課題に関する協力を推進することで合意した。

#### 1 1 墨政府、アフガニスタンからの難民を受け入れ

タリバン勢力によるアフガニスタンの首都制圧を受け、24～25、29、31日、墨政府は、若手女性技術者グループ、メディア関係者、人権活動家、その家族等、生命の危険に直面した計300名超のアフガニスタン難民を受け入れた。墨外務省プレスリリースは、墨政府の人権促進及び尊重の原則に従った、難民保護及び受け入れに係る人道的かつ一貫した伝統を強調。今後、難民の受け入れが継続される予定。

#### 1 2 移民保護プロトコルの再開に係る米国最高裁判断と墨政府の見方

24日、米国最高裁判所は、移民保護プロトコル（注：Migration Protection Protocol（英語通称 Remain in Mexico、西語通称 Quédate en México）。トランプ政権時に導入された、第三国出身者がメキシコを通過して米国の庇護を申請する際、申請が承認されるまで、陸路で入境しようとした申請者に墨国内で待機するよう定める制度）の適用再開に係る下級審の判断を支持する判断を下した。25日、墨外務省はプレスリリースを発出し、外交政策の憲法上の原則に基づき、墨政府は同判断に対する見解を示さないが、この種の司法決定はメキシコを拘束せず、当国の移民政策は主権的に企画・実施される、米国最高裁の判断は、墨政府の移民管理に直接的な影響を与えないとの立場を強調した。

#### 1 3 エブラル外相の武器貿易条約加盟国会合への参加

30日、「エ」外相は、第7回武器貿易条約（ATT）加盟国会合にオンラインで参加し、演説を行った。「エ」外相は、無責任かつ違法な武器貿易に対抗するため、加盟国間の協力、情報交換、及び国境を超えた取引の制御の強化を呼びかけた。また、年間20万器を超える銃器が墨国内に違法に流入している点を紹介し、それらの銃器の使用による暴力及び殺人が増加している状況を遺憾に思う旨述べた。

#### 1 4 CELAC中国貧困削減・開発促進フォーラムの開催

31日、メキシコ議長国の下で、第1回CELAC中国貧困削減・開発促進フォーラムがオンライン開催された。同会合は、パンデミックに起因する特に緊急性の高い地域のニーズ及び課題への対応を図る、CELAC中国フォーラムの活動強化の一環。同会合で

は、ラ米カリブ諸国が貧困を削減し、国民を利する開発を促進する政策、及びパンデミック対応とパンデミック後の経済回復のために経験を交換する国際協力の重要性が強調された。

(了)